

# 『11・22通信』縮刷版

## 発刊にあたって

いわゆる「11・22事件」が発表されてから、ちょうど六年たちました。その間の救援運動の経過や、その成果に関しては、すでに多く語られていますので、ここで申しあげるまでもないと思います。

多くの人たちの渡韓や集会設定のための努力に加えて、この救援運動を支えて来たものに「11・22通信」の発行があります。この、文書による報告や訴えが、私たちが事実を知って救援を進めていく上に、なくてはならない役割を果たしました。

当初、とにかくデッチあげの過程や裁判の結果をなるべく早く、しかも正確に報告し、合わせて当事者や関係者の声を収録して、救援運動を支援して下さる方にお届けしようというつもりで、その発刊を計画したのです。だから、そんなに大きな計画はありませんでした。発行する費用も計上できるわけでもなし、全く五里霧中でした。ただ、一般新聞の報道だけでは限りがあるので、とにかく私たちがつかんだ事実を出来るだけ多く報告出来る自前の新聞がほしいという思いが、この作業にかりたてたのです。

この「11・22通信」も、数えてみればもう33号も発行したことになります。そして、一般的な韓国問題の情報誌の間であって、「政治犯問題」というきわめて厳しい現実をふまえて、殆ど人に知られない面からの情報が提供出来た意味は大きいと思うのです。救援会関係者のみならず、広く韓国問題に関心を持つ人々に歓迎された理由も、そこにあると思います。

今回需要に応じて、この「縮刷版」を出すことになりました。ここに載せられた記事を読み返し、検討することが、新しく展開される日韓情勢を理解する上での、大きな力になるのではないのでしょうか。それに耐え得る、生きた情報が記されているのです。

この機に、苦勞して編集に当たられた実務者、ならびに、毎日多額のカンパで発行を支えてくださった読者の皆さんに、心からのお礼を申し上げます。

11・22在日韓国人留学生・青年不当逮捕者を救援する会 事務局長

桑 原 重 夫

# 11・22通信

## 縮刷版

# 目次

### 《創刊号》

☆11・22在日韓国人留学生・青年「スパイ団」デッチ上げを許すな！

■11・22救援会結成 ■21名の学生・青年は無実だ！  
学生・青年を直ちに釈放せよ！11・22救援会へ圧倒的  
結果を！

■「11・27記者会見」暗黒裁判を許すな！（談話／逮捕された人々の紹介）

### 《第2号》

☆18名の在日韓国人留学生・青年をK C I A の餌食にするな！

私たちの友人の命と青春を救おう！！

■4人死刑へ白玉光・金五子・金哲顕・李哲 10人に  
重刑判決（事実審理ぬきのスピード裁判） ■大阪  
・京都・東京―各地で一斉に抗議の声！ 4・20記者  
会見・ハンスト／5・12緊急抗議集会／連続抗議行動  
（京都）／ハンスト打ちぬく（東京）

■新たに5人の逮捕者―当局は一切沈黙 ■「100  
万人署名運動」4・24一斉に始まる！ ■友の無実訴  
え―婦日留学生会発足 ■新しい出会いを！金五子さ  
んのこと（内村公義（牧師）） ■4・24領事館へデモ  
■声明

☆巻き起これ！抗議の救援の嵐を！

―あらゆる層を網羅し、総力をあげ運動を―

■労働界も大集会―支援の動き高まる ■抗議の声  
（2・23）学界法曹会も ■権末子さんの涙の訴え ■  
2月20日に飛鳥で抗議集会 ■白君にアリバイ―近畿  
弁護士会発表 ■（東京）崔・陳さんを救え！ ■  
韓学同抗議の集会 ■金三郎・安日秀は実在するか？  
■11・22不当逮捕者の個人別救援会連絡所

### 《創刊号》

■アムネスティーのエンルズ事務総長来日―留学生の  
家族と会談 ■国会質問行なわれる―家族の見守る中  
― ■「濁流に抗いて」1万部突破 ■在日K C I A  
の暗躍―あなたも彼らに御用心― ■救援会への手紙  
■在日韓国人二世・三世の母国留学制度について ■  
救援会短信

### 《第3号》

☆第二審始まる 白玉光氏に死刑

各被告ら「無実」を果敢に主張

■ソウル高裁へ傍聴に40数名 ■金五子さん無期に！  
■怒り増し抗議行動へ―各救援会一斉に―（8・31抗  
議集会／金哲顕君死刑求刑にハンスト突入） ■ソ  
ウルへ発送予定・百万人署名集約へ ■ありがたうの  
声に ■速報 金哲顕氏に死刑判決

☆民団の妨害はねのけ800人を結集7・14

■領事館へ―初の抗議行動（7月15日） ■（5人目）  
康宗憲君に死刑！（第一審判決） ■映画「再会」で  
きる ■母親よりの訴え ■アムネスティー国際会議  
桑原氏訴え ■救援会短信

### 《第4号》

☆ソウル高裁許すな！この暴虐を―康宗憲氏

李哲氏に死刑！

康氏・李氏敢然と脅迫・拷問を暴露

■各地でハンスト行動―東京・岡山・熊本― ■抗議声  
明 ■第3審始まる金鍾太氏に棄却、金五子さんは大  
邱へ！  
■ソウル獄舎へ響け！4人の叫び9/17 ■友人を救お  
う―各大学で支援の渦広がる― ■領事館へデモ ■  
第二審金哲顕氏に死刑！一層の救援の声を ―留学

### 《第5、6合併号》

☆白玉光氏、金哲顕氏、李哲氏、康宗憲氏  
死刑確定―執行を阻止せよ！

―裁判ほぼ終わる（11・22事件）―

■抗議の記者会見―%・% ■金哲顕氏無期に減刑  
■11・30玄海灘に架橋を 最大の二千人結集 ■領事  
館に抗議、%御堂筋デモ―400人 ■あなたも直接救援  
を！ ■11・22不当拘束者の個人別救援会連絡所  
■抗議声明

☆大法院への上告理由書全文―李哲氏

■死刑はK C I A要員に  
■日本の友人へ―最後までベストを 康宗憲 ■西大  
門の宗憲へ―必ず救い出す！！ 久渡文四郎 ■康氏・  
李氏に新たなアリバイ出現―「北行き」を覆す ■救援  
の輪求め―マイルズ夫妻米国へ  
■大阪・京都の救援会 ハンストで呼応%・% ■ハ  
ンストを闘って ■安宅氏国会質問―留學生ら救済求  
めて ■映画「世界人民に告ぐ」各地で上映 ■政  
治犯 釈放めざし各地で抗議―2月行動月間  
■11・22留學生支援 3・3フォーク・コンサート  
■3・3コンサートを聞いて ■被救援者の内実に迫  
れ（投稿） ■救援会短信

### 《第7号》

☆李哲氏 獄中でハンスト―釈放と待遇改善求

め処刑策動を弾劾！ 獄中の闘いに呼応せよ！  
■緊急速報 白玉光氏―再審却下される！！ ■金元重  
氏、獄中弾圧に抵抗―転向峻拒の報復 ■政治犯特赦

生事件―弁護士会が声明―10・26 ■いつの日か北里  
秀郎  
ソウル高裁、第二審公判廷で、康宗憲氏・李哲氏「北  
行き」を全面否認！ ■無実を主張（記者会見）  
■11・22事件一周年！ ■衝撃の事実を告白―康宗憲  
氏公判録 ■談話 亀田得治  
■李東石氏第二審公判伴聴記録―いつの日か再会を！  
■金五子救援の永続化に向けて！ ■アムネスティー  
国際総会へ桑原氏訴える！ ■11・22不当逮捕者の個  
人別救援会連絡所 ■救援会短信

「11・22」は適用除外 ■4・19デモ、領事館包囲  
●死刑阻止共闘結成さる  
■6・14新たな胎動求め―全関西で13000人結集  
■映画「世界人民に告ぐ」全国で好評上映 ●闘わん  
元重と共に ●マイルズ夫妻帰国―米国に救援の世論  
巻き起こす ●米議員35氏↓韓国大使へ 公開書簡を  
送付 ●救援会短信 ●京都定例デモのお知らせ  
……………20

### 《第8号》

1977年11月22日

☆白玉光・康宗憲氏に再審棄却

―抗議の渦巻き起こる！

―当局の処刑策動に―怒りもて対峙せよ！

●白氏、アリバイ判明 ●康宗憲氏再度の棄却―転向  
拒絶の報復か？ ●11・22救―対政府行動 ●救援の  
決意 求める ●3000人の大デモ ●28領事館  
へ ●各界の良識ある人々に訴える―11・22事件二周  
年 ……………21

●新たなデッチ上げ―柳兄弟事件―拷問を告発、判決  
は無期 ●李哲氏、死刑確定から半年―各地で抗議行  
動、東京／大阪／熊本 ●日韓閣僚会議、抗議の連続  
行動 ●11・22連座の本国学生ら、救援も届かず凄  
惨な拷問 ……………22

●共に頑張ろう―李東石氏の獄中記録 ●渡韓報告  
また会おう、崔さん！ ●原状回復を！ 留学生らの  
原票抹消に抗議 ●政治犯に支援を！9・11名古屋で  
初めて ●シンポジウム 李哲氏の会 ●演劇を上演  
李東石氏の会 ●絶対安静 李哲氏の母堂 ●城北地  
区で映画に30人 ……………23

●「処刑停止求め」ソウルに要請電報！ アムステ  
イ国際大会 ●映画「詩雨おぼさん」皆々に観て欲し  
い！ ●支援コンサート「シラケに終止符を」小林隆  
二郎さんに聞く ●事務所を開設 11・22大阪連絡会  
●スライド完成 金元重の会 ●救援会短信  
……………24

### 《第9号》

1978年2月7日

☆内閣、外務省、法務省へ―

要請行動を展開！

救援の具体化めざし35の個別救援会

●留学生らの獄中待遇悪化へ！ ●金達男氏釈放―在  
……………24

日では初のケース ●速報 新たな犠牲者  
●救援に新たな光を！11・22事件2周年 大阪／京都  
／東京 ●康氏に再度のアリバイ ●渡韓報告 酷寒  
の獄舎へ ●ハンストに支援を 京都●●●アム  
ステイ―西独支部 白・康氏をアグアト ●柳兄弟  
救援―署名に協力を ●救援会短信  
……………25

### 《第10号》

1978年4月20日

☆5・27 徐俊植氏刑期満了

完全釈放へ全面支援を、524関西西集会に結集せよ

―社会安全法適用阻止の闘いを！

●李哲氏 「再審」棄却の動き？ ●姜宇奎氏死刑確定  
●阻止共闘 78年方針出す  
●柳兄弟事件 全力で救援を！ 第二審、僅か2回で結  
審 ●李哲氏、康宗憲氏 確定一周年抗議の連続行動  
熊本／東京／大阪 ●対政府交渉―障壁を打破せよ！  
●再入国問題 国会で質問 ●「社会安全法」とは  
●書評 「我生さんと欲すれど」  
……………27

●処遇改善されず 康宗憲氏―就寝時も手錠 ●厳寒  
ハンスト貫徹―2・19京都「協議会」結成 ●許景朝  
氏 保釈後も監視続く ●李秀熙氏―救援へ動き出す  
●領事館デモ規制はねのけ ●梁南国、趙得勲氏一周  
年果敢に抗議行動 ●池学淳氏が李哲氏に差入れ  
●詩雨おぼさん―12000人 ●ソウル通信 康宗憲  
……………28

●アムステイ―一万通(電報)の緊急行動―6人の  
死刑囚救済へ ●殺されてたまるか フォークコン  
サートに15000人 ●大田矯導所内労役 崔然淑さ  
ん、パーマの助手に 金東輝氏、油絵の製作に ●書  
評 「我生さんと欲すれど」 ●救援会短信  
……………30

### 《第11・12合併号》

1978年8月1日

☆5・27 徐俊植氏再び獄窓へ

―怒りもて断固闘え

「社安法」(保安監護処分)適用！

●怒れ、更に怒れ―敢然と大使館デモ ●抗議集會  
6・3東京／6・9大阪 ●各地でも決起 ●特派員  
対象に記者会見 ●外務大臣 善処を約束  
●徐氏の完全釈放めざし、救援世論巻き起こる―各界各  
層一斉に ●ビザ発給停止 西村・横路両氏に ●マ  
……………31

スコミ、知識人 徐氏救援へ動く ●金達男氏帰日―  
KCIA介入、救援会一斉に警戒 ●柳兄弟ら 無実  
の声届かず暴虐な上告棄却 ●自転車デモ 領事館  
で氣勢 ●個別救援連絡会 大阪で開催 ●僑胞の会  
一周年集會  
●日本⇕韓国 ドキュメント37時間(上)  
……………32

共に歩み共に闘おう／26日夕、徐俊植氏検察庁に  
呼ばれる／5・27 全州、大阪、東京 深夜の胎  
動始まる／午前4時―外禁令解除、全州矯導所に  
向う／徐氏 既に大田へ 暴挙に怒りの声／大田  
に移動開始！  
……………33

●11・22救、個別救 友人へ差し入れ成功 ●矯導所  
レポート ●康宗憲、処遇依然変化せず、救援運動に  
期待する ●金元重氏 待遇悪化の一端 ●康宗憲  
アリバイ物証で再審に結ぶか ●わが畏友、徐俊  
植君に寄す 西村関一 ●アムステイ―本部、緊  
急行動を指令―徐俊植氏再収監に怒り ●徐光允氏  
に初の差し入れ！！ ●救援会短信 ●書評、読者から  
の手紙 徐兄弟獄中からの手紙／我生さんと欲すれど  
……………34

### 《第13号》

1978年10月20日

☆11・22事件糾弾―三周年

11・12月連続行動に結集を！

●留学生らの内実深くかわれ  
●ソウル報告 白・李・康氏の近況、再会の日ま  
で！ ●在日韓国人政治犯では二人目 金榮作氏既に  
釈放か―出所の確認とれず ●「全国会議」主催 定期  
閣僚会議糾弾集會 ●断鎖  
……………37

●日本⇕韓国 ドキュメント37時間(下)  
東京行動、果敢に展開／徐俊植氏にインタビュー―  
真摯な良心を守れ  
……………38

●在日韓国人「政治犯」支援コンサート―若者の息吹き！  
救援へ ●李東石 大田からの便り ●姜鍾健氏 処  
遇悪化激励と抗議の集中を！ ●徐俊植氏との面会実  
現す ●徐光允氏の母(ソウル)ハンストで倒れる  
●7月29・30日 個別救援連絡会―大阪で開催 ●柳兄  
弟ら 光州に移監  
●救援会の原点を模索 9・16／17大田グループ交流  
会 ●消息不明の在日「政治犯」金勝孝氏光州に！  
……………39

・22救—救援行動へ ■君、李哲の生命を守れ/全国  
コンサート ■金鍾太氏、李元二氏 初の面会実現  
■ソウル拘置所 領置金の拒否か? ■救援会短信  
■集案案内 11・22事件3周年 京都/東京 ……40

### 《第14号》

1978年12月16日

### ☆3周年—救援を!新たな地平へ!

11・22事件3周年糾弾 大阪12000人/東京5000人/京都  
■特赦に踏み切るか—救援会・家族静観 ■ソウル通信 康宗憲 ■11月20、22日対領事館行動/館員らあわてる 韓国より書簡 大阪連絡会へ ■断鎖 ……41  
■12・14対政府交渉日決定/関西から大挙上京 ■園田外相発言/内政干渉と思わぬ ■11・22 外務省 ■渡韓レポート 姜鍾健氏を追い求め! ■「非転向は出さない」李東石氏の待遇悪化 ■趙得勲—光州視力が低下 ■崔然淑に面会 ■留学生に年賀状やカードを あなたも直接救援を ■救援会短信 ……42

### 《第15号》

1979年2月17日

### ☆更に救援のうねりを

### 果敢に対政府交渉—12・14

■留学生らの処遇—年初より悪化へ ■白氏のオモニ死去 ■金元重氏面会 友人の手紙は禁止 ■李秀熙氏、光州に下獄 ■断鎖 ……43  
■きけ/魂(ソウル)の叫び—李哲氏支援全国断鎖コンサート ■渡韓報告 11・22救援会(上) 差し入れも拒絶 ■病棟に移さる 金五子さん、金鍾太氏 健康悪化! ■梁・趙両氏を救え/2・8デモ ■清州保安監護所 徐俊植氏移監 転向強要熾烈に ……44

### 《第16号》

1979年4月14日

### ☆本人支援の強化に全力を

4・30救援大バザーに参加を!  
■許景朝・張永植氏 無罪判決(ソウル高裁差し戻し審) ■李哲氏(3・8)康宗憲氏(3・15) 各地で抗議行動展開—死刑確定2周年 ■刑期7年残り金榮作氏帰日—在日では2人目 ■オモニの来韓を心待ちに 白玉光 ■白氏救援へ海外から寄金 ……45

■渡韓報告 11・22救援会(下) 差し入れも拒絶 ■また行こう/友人のもとへ 柳英数氏を救う立命館大学の会 ■閔さん(李哲氏夫人)釈放ならず—KCI A横やりか ■柳兄弟ら 収監番号判明 ■ソウル拘置所のみ「私食金」制活用を ■救援会短信 ……46

### 《第17号》

1979年6月29日

### ☆徐俊植氏再収監一周年糾弾

### “政治犯”全員の完全釈放を!

—怒り新たに連続行動 東京/大阪  
■元在日政治犯 金榮作氏再入国の経過判明 ■カ—ター訪韓 人権抑圧を否認 ■断鎖 ……47  
■クリスチャン・アカデミー事件/統革党再建事件 KCI A相次ぐ「政治犯」ねつ造 ■韓国の全政治犯に救援の手を! ■ソウル拘置所面会室 ■救援バザー大盛況! ■書評 対日本政府行動報告集 ■ソウル報告 面会また適わず 白玉光氏を救う大阪の会 ■5・25立命館大 救援の集い ……49  
■30回 京都定例デモ—都大路を練り歩く ■在日韓国人「政治犯」救援に「国際人権規約」の活用を! ■「11・22事件」4周年 世界統一デー企画 ■投稿 西村関一 ■パンフ紹介 この繩を断て(白玉光氏救援の記録) ■救援会短信 ……50

### 《第18号》

1979年8月11日

### ☆救援会・対政府交渉実を結ぶ

### 白玉光氏恩師と面会

山田阪大教授、初の快挙  
■光州でハンスト 柳兄弟、金整司、徐光兌ら参加 ■救援運動の結節点—新たな飛躍を! 8・23閔さん刑期満了 ■「政治犯」リスト韓国に—在日も含まれる ■許、張氏 旅券発給さる ■各地で相次ぐ合宿、学習会 ■断鎖 ……51  
■一日も早い救援を—女性収監者の近況に考える— 金五子さん、崔然淑さんいま ■領置金とは? お金があれば刑務所にも入れない ■韓国で関心高まる—在日政治犯に注目 ■梁南国氏、光州矯導所 友人の手紙届かず 趙得勲氏「アボジ、オモニ お身体を大切に」 ■映画「世界人民に告ぐ」岡本氏寄贈—李哲氏を救う会へ ■金鍾太氏 再び雑居房に ■救援会短信 ……52

### 《第19号》

1979年10月14日

### ☆苦節4年、勝利の第一歩

8・15特赦(梁南国、金整司、崔然淑、柳成三) 釈放 李哲氏も無期に  
■康宗憲「これはわれわれの闘いの成果だ」 ■李哲氏 大田へ ■釈放の八氏 帰日は12月か ■断鎖 ……53  
■記者座談会 特赦の背景をえぐる—8・15は勝利への燭光 ■8月14日・15日 釈放の48時間 ■各地で支援行動活発 “政治犯”家族を国連へ ■蔣さん、閔さん 満期出所—今後も注視の必要 ■8・30集会 CICI係官、康氏に弁明 上司の命令だった ■康氏救援映画完成 ■李秀熙・金勝孝氏初の差し入れ ……55  
■閔香淑さんとの三日間—救援の重さを感じる ■11・22事件—四周年 世界統一行動 ■徐光兌氏・金明洙氏 健康悪化—家族は沈痛な訴え—拷問の後遺症か? ■渡韓報告 壁を隔てた往復書簡 金鍾太氏を支える会 ■西村関一氏死去 ■許氏・張氏 帰日! ■「11・22事件」では初めて ■救援会短信 ……56

### 《第20号》

1979年12月22日

### ☆「11・22事件」5年目の闘いに突入

### —救援運動大きく前進 12・10 8人帰国

■待遇悪化—大田矯導所—外務省に要望する ■大田の李哲氏 収監番号判明 ■10・26朴大統領射殺さる ■康氏救援の映画、各地で上映 ■断鎖 ……57  
■日本政府「再入国許可」を交付 “政治犯”家族、年初に国連へ! ■「再入国」の難関打ち破れず 法務省交渉へ11・7、12・12 伊藤発言は撤回! ■11・22事件 4周年糾弾闘争—各地で連続行動を展開 ■11・22集案に17000人結集 ■東京連絡会結成される ■張氏 友人に無実を強調 ■康宗憲氏 獄中で作詞作曲 ■救援会短信 ……58

☆12・23 李元二氏、金東輝氏釈放!

1980年2月14日

弾みつけ一層の前進を!

■仮釈放 徐光兌氏も釈放一拷問に耐え、馬山から出所 ■康宗憲氏に復学手続? ■康宗憲 険しくも、80年は我々の未来だ! ■誤報の重さと罪 ■断鎖 1・7・31 国際世論を巻き起こす! 国連派遣家族代表団、奮闘する ■大田レポート 李東石氏存分に語る一処遇・転向・信念 ■家族代表団のアメリカ入国 韓国政府、妨害策す ■李秀熙氏 柳氏と同房に ■胃腸の痛み訴え 金五子さん 憔悴 大邱矯導所 ■救援会短信

59

☆在日韓国人「政治犯」問題

1980年3月29日

国連人権委「正式提訴」を受理

救援は新たな局面へ

■相次ぎ釈放される本国政治犯 徐光兌、金明洙、田炳生氏ら ■国連派遣報告会各地で開かれる ■李哲氏のオモニ死去 ■4・6救援大バザーに参加を! ■「政治犯」救援を韓国政府に突きつけよう ソウルで要請行動を ■趙得勲・李哲救が集会一判決確定三周年 ■金五子さん 病状好転へ ■渡韓報告「友人」を追い厳寒の矯導所廻り ■投稿 刑期おえた徐俊植氏即時釈放を! ■救援会短信

60

☆5・27 徐俊植氏の即時釈放を!

1980年5月21日

第23号

社会安全法・再更新を断固阻止せよ!

■渡韓報告 徐兄弟の早期釈放を! 山田昭次 ■政治犯家族ら、独自の陳情団 ■恩師らと面会を...京都の救援会・外務省に要請 ■救援の集い 4・25、京都で ■断鎖 ■特集 韓国獄舎の実態 ■転向特集 人権無視の邪悪な転向強要を暴露/在日「政治犯」と転向の問題点 ■4・6救援大バザーに800人ー収益は差し入れ費用に ■ビザ申請を出す 5・23対韓国交渉団 ■光州・金

65

64

63

☆社会安全法・二度目の適用ー徐俊植氏再び獄窓へ

1980年7月31日

救援運動 激動の渦中に!

■家族へ手紙ー徐氏無事か? ■徐氏救援へ 各地で行動 ■呉己順さん逝く ■解説 再び暗黒へ ■再び国連行動 担当官来日ー家族も出発 ■断鎖 ■特集 光州の友人は無事か ■光州からの通信 柳英数 ■金哲頭氏、馬山から光州へー相次ぐ移監に怒る! ■本国関連者も再拘束! 韓国一斉弾圧 金明洙氏ら憂慮 ■柳氏、肋膜炎化ー隔離病棟へ ■光州の矯導所長、救援会に書簡 ■韓国で「社会安全法」撤廃論議巻き起こる ■諫言 在韓日本大使館へ「もつと働こう」 ■金東輝氏、李元二氏帰れずー救援会・政府に行動促す ■早急な対応が必要ー入国査証拒否、増える ■清州レポート 壁は高く厚かった ■全州・光州初の面会へ「教員グループ」出発 ■李東石氏釈放へ市議会決議 ■速報 白氏ら再審棄却 ■書評 日韓連帯への道(桑原重夫著)

66

67

68

69

70

71

72

☆白・康ら五氏再審棄却! 死刑執行を断固阻止せよ!

1980年10月10日

第25号

全国総行動、始まる

■速報 崔氏再び棄却 ■8・15光復節 李東石氏釈放ー手紙では「救援の成果」と感謝 ■康宗憲 執行を覚悟「両親を頼む」 ■趙氏の父死去 ■解説 韓国はどこへ ■断鎖 ■緊迫した議論続く 政治犯家族、三度国連へ ■昨年釈放 李元二氏、金東輝氏 10ヶ月ぶりに帰国 ■渡韓報告 金勝孝・柳英数氏 心身とも疲弊、早急な救援を(上) ■光州決起の影響かー相次ぎ移監される ■帰日者支援 守る会発足 ■パンフ紹介 玄海灘を越えて 救援短信

73

74

75

76

77

78

☆在日の五氏・金大中氏ー執行の「危機」続く!

1980年11月22日

姜鍾健氏の完全釈放を!

■姜鍾健氏の完全釈放を! 2・14刑期満了、社会安全法適用か? ■議員懇談会できるー国会で政治犯救援めざす ■22事件5周年 各地で取組む 姜鍾健 全力で運動を! ■帰日政治犯の「一般永住」認可まで曲折か 李在永氏 急拠国連へ ■姜君の釈放を! 醇化された品性に私は包みこまれた ■高原宏平 ■書評 「朝を見ることなく」ー呉己順オモニを悼む 金秀頭 ■獄死免れ釈放さる! 不明の政治犯 救援会が動く ■康宗憲氏救援へ 長編映画できる ■金元重氏 懐柔を拒否 ■救援短信

73

74

75

76

77

78

☆2・14 姜鍾健氏釈放されず!

1981年2月28日

第28号

社会安全法適用されるー怒りこめ行動を!

■姜鍾健 完全釈放求めー各地で懸命の要請行動 ■ソウル拘置所の死刑囚 枢機卿励ますー再審めぐり緊張続く ■「決議」求め国連へー第5次派遣団出発 ■渡韓報告 友よ! 凍てつく冬に春を招き来らせよ! ■金哲頭 獄中で手錠 光州 ■本国関係者の近況ー徐光兌氏は依然不明 ■「転向強要」激化ー当局、家族呼び出す ■趙得勲氏 父の死に無念 ■解説 戒厳体制続く

79

80

《第29号》

1981年4月18日

☆馬山矯導所 柳英数氏獄中で暴行

抗議のハリスト―謝罪から取る

- ソウル 慎東仁氏獄死 ■韓国大使を喚問―第5次国連派遣団 ■第2次総行動―署名に協力を ■政治犯は38人 金達寿氏ら請願 ■断鎖
- 李東石氏 残された友人のため共に頑張りましよう 報告集会 ■慎東仁さんの58年間―痛恨 遅すぎた救援 ■金哲顕救 外務省に要請 ■徐兄弟逮捕から10年を迎えて ■速報 柳英数氏に領事面会 ■救援短信

《第30号》

1981年5月25日

☆金東輝氏 拷問を暴露

帰日政治犯、初のインタビュー

友人の釈放へ私も頑張る

- 水上領事 柳氏と面会―獄中テロを調査 馬山矯導所 ■断鎖
- 第2期全国総行動―5・30に全国結集 ■ハリストで抗議―死刑囚の手錠改悪 ■清州保安監護所 食べ物入る? ■康宗憲事件 朴氏既に釈放 ■金勝孝氏 暴力的拘禁にはもう耐えられず ■領置金アップ―物価高に悲鳴 ■救援短信

《第31号》

1981年7月24日

☆秋期攻勢に弾み―救援に一層の奮起を!

第二期総行動成功へ

- 孫裕焯事件 テッチ上げを糾弾/救援会結成へ―近弁連に提訴も ■内政干渉の壁破れず 5・29対政府交渉 ■集案案内 韓国の獄中医療と政治犯救援運動 ■断鎖
- 日本警察 不当な自宅捜索―救援会、孫さん支援へ ■李東石 盛夏、獄の友を想う ■大阪連 学習会開く ■柳英数氏 光州に再移監 ■不明の政治犯・黄氏既に釈放 ■新たな死刑囚―不明政治犯判明 ■康宗憲 弟へ ■許慶子さん死去 ■救援短信

《第32号》

1981年9月22日

☆最後の勝利へひた走れ―8・15特赦

八人釈放、四人減刑

死刑囚らは含まれず―救援は新たな局面へ

- 東京・大阪 記者会見 ■ソウルの60時間―帰日は10月末か? ■8月29・30日、救援合宿 ■8・14 李哲救 救援集会開く ■断鎖
- 孫裕焯事件 裁判始まる―救援の動き活発に/9・22集会―救援会発足 ■最終的には40万へ 第二期総行動署名集約 ■獄死阻止へ結集―8・4医療シンポ成功 ■崔哲教氏 肝臓炎―早急な救援を・病状悪化 ■パンフ紹介 「青い囚衣」(李東石さんを救援する会) 「深き淵より」(金哲顕君を救う会) 「崔哲教さん救援のために」(崔哲教さんを救う会) ■8・15特赦の背景をえぐる 全員釈放へ邁進せよ 記者座談会
- 政治犯の健康を憂慮 国連人権委・事務総長に要請 ■刊行記念の集い 「青い囚衣」―李東石救 ■精神不安も現実―孤絶した独房 金哲顕氏面会記 ■大邱矯導所訪問記 徐勝面会の壁厚し 徐龍達 ■渡韓報告 特赦後の矯導所巡り―11・22救援会 ■法務省 一般永住申請を棚上げ―帰日政治犯、在留資格に不安 ■書評 「徐兄弟 獄中からの手紙」 ■救援会短信

《第33号》

1981年11月22日

☆相次ぎデッチ上げ

―早急な救援の取組みを

陳利則氏は7年判決―4人逮捕

- 孫裕焯氏 暴虐な死刑判決 ソウル地裁 ■断鎖
- 10・2対政府交渉―政府の壁、依然厚し ■求刑公判傍聴記 孫氏、毅然とした姿勢・法廷に呻きの涙滴つ ■柳英数氏 肋膜炎再発か? ■帰日は12月―特赦の8人 ■大邱の金五子さん、減刑を喜ぶ ■康宗憲 最終走者に喜び ■11・22通信 縮刷版できる! ■指名手配に「金哲顕事件」の田氏 ■大阪の会発足 ■救援短信 ■パンフ紹介 「告発/獄中医療」韓国獄中医療と救援運動

# 『11・22通信』の読者のみなさんへ

## —— 抜 粹 収 録 ——

「11・22通信」発刊の都度、『編集者から読者へ』と題する一文が書かれている。これは、通信の10号の頃から続けられ、B4のザラ紙に手書きのファックス刷りで、約三千字の手紙である。内容は、その折の通信の記事に言及したり、あるいは書き尽せなかったことを補足したり、また救援課題の要請事項などが比較的平易な書簡形式で綴られている。但しこれは、約七百部ほどしか刷られず、「11・22救援会」から直接発送する、郵送読者のみにしか読むことができない、いわば内部通信というべきものである。

本縮刷版刊行に際して、参考として以下に、その一部を抜粹掲載するものである。

先号の続きの「ドキュメント」は今後で完結しました。出来栄えは如何でしょうか。

いろいろな方から反響があり、随分とおほめの言葉を頂きました。曰く、「臨場感があり一気に読み通した」「読了後、何かしなければ……と、痛切に感じた」「非常にわかり易かった。この種の運動は、ともすれば自己満足型に陥りがちだが、ひとりひとりが大地に立っているという感じがした」「渡韓した横瀬さん、この女性に一目会いたいと思います。彼女はとても素敵な人でしょう」等……。

こちらも何かしらこそばゆくなるような好意的なご批評で、少し恐縮致しております。

しかし、その一方で、「あそこまで書く必要はないのでは……」「筆者のひとりよがりの視点が目についた」というお叱りもありました。そして、私たちがショックだったのは、登場人物の一人の方から「ゴシップめいて、女性差別につながる」とご指摘されたことです。私たちは、この方の仰言ることを至当と考え、自己批判すると共に、この手紙をお借りしてご迷惑をおかけしたことを深くお詫びするものです

次に、四面の“金勝孝”氏の発見の話です。この記事では「金勝孝氏は光州矯導所にいることが先頃判明した」と簡単に書いてありますが、この事実一つを調査するため信じられないような時間と費用、それに労力を要しているのです。その労も、当局の嘲笑、イヤガラセ、脅迫にも負けず、敢然と正面からぶつかりこの決定的な情報を掌握した救援会員の獅子奮迅の活躍には正直いって頭が下がりました。このような人たちによって救援会が支えられているのはとても心強いことです。

玄海灘を隔てて、牢獄の留学生らと私たちは常に一体感を保ち続けたいと思います。彼らがひもじさと寒さに泣く時、私たちも涙を流します。彼らが心おだやかにほほえむ時、私たちもさりげなく笑みを取り戻します。この一体感を大事にしましょう。 (13号、78年10月20日)

「11・22事件」も、この11月で三周年を迎えました。光陰矢のごとし、ではありませんが、あっという間の三年間でした。

この間、救援会のメンバーもほぼ定着し、皆それぞれ“友人との再会”を合言葉に日夜いろいろ

ろな活動に懸命です。そして、この暗い事件を吹き飛ばすように、これら会員の間では、さわやかなほほえましいカップルが続々と誕生し祝福を受けています。同一救援会内は勿論、〇〇救援会と△△救援会というふうに所属の異なる組み合わせも目立ち、その中には可愛い赤ちゃんをもうけた方もいらっしゃいます。何故、こんなことを書き出したかという、本通信一面に紹介されている康宗憲氏の手紙に触発されたからです。この書簡の最後の方になって、私は少なからぬ衝撃を受けました。康氏が彼女の消息を憂慮している箇所です。

康宗憲氏には、拘束される以前から素晴らしい彼女がいました。いま仮に彼女の名前をAさんとします。Aさんと康氏は、はた目も羨むほどのお似合いのカップルでした。Aさんは、韓国きつての名門梨花女子大の学生で、美しいお嬢さんでした。ソウル大構内のマロニエの木の下を二人は仲良く歩いたものです。

しかし、やがて幸福な二人に破局が訪ずれました。75年12月、康氏はあらぬ嫌疑をかけられCIC（陸軍保安司令部）に連行され翌春まで拷問にさい悩まされ続けるのです。

裁判が開始する頃からやっと面会できるようになったAさんは、<sup>けなげ</sup>健気にも幾多の脅迫や圧力に抗し、ソウル拘置所と裁判所に日参しました。本国の韓国人にあって、スパイ容疑の人間をかばうことが、どれだけ勇気のいることか想像を絶するものがあります。

彼女は、康氏への真実の愛をもってその私心のない行動を貫いたのです。それが、どれほど康氏を勇気づけ励ましたかはいうまでもありません。

二審時、彼女は日本人救援会員に、美しい瞳を涙で一杯ためて、たどたどしい英語で『He is not guilty（彼は無実です）』と懸命に訴えていました。二人の愛は、康氏が獄に在ってもいまだ一度甦るかと思われたのですが、黒い権力が、この一筋の糸さえも裁ち切ったのです。

ソウルの春まだ浅い77年3月13日、この日若い二人はソウル拘置所の冷えびえとした面会室で、硝子の仕切り窓を分けて、最後の逢瀬に臨みました。この時、二人は何を語り合ったか不明ですが、二日後には大法院の審決日を控え、確定すると親族以外の面会は厳禁されることは、二人とも知っていた筈です。

Aさんとしては、ここまで耐えたのが、ギリギリの限界だったかも知れません。

一つ推測することを許して下さい。彼女の背後でドス黒い権力の魔手が跳梁し不断に苦しめていることを案じた康氏は、万感込めて、彼女に最後の言葉を告げたかも知れません。

その忘れようとした彼女のことを、家族あての手紙でさりげなく触れざるを得なかった康氏の胸中は察するに余りあります。（この経過を知っている編集部の若い諸君が、手紙を原稿用紙に書き写しながら、思わず落涙した）

この悲劇は康宗憲氏だけではありません。同じ死刑判決を受けた白玉光氏と李哲氏の場合ももっと悲惨です。というのは、二人とも最愛の人と共に捕らわれ、裁判を受け、そして韓国の南と北で拘束され続けているのです。蔣明玉さん（大田矯導所）と閔香淑さん（光州矯導所）のことです。白、李両氏は裁判でも、恋人を守るため死をも覚悟した立場を披瀝し、傍聴の会員らを感じさせたものです。

また、康宗憲氏が手紙で彼女の消息と健康を真剣に尋ねているのと同様に、白、李両氏も家族との面会では、いの一に「彼女はどのようにしている」と聞くのが常なのだそうです。二～三〇年後、後世の歴史家はこの事件の虚構性を徹底的に暴くことでしょう。その作業は勿論必要なことです。

しかし、若い二人の愛が国家権力によって無惨にも踏みつけられ、容赦なく蹂躪され、生き永らえつつも泣く泣く引き裂れた、いわば歴史の谷間に埋もれたもう一つの事実を断じて忘れてはなりません。



“真実の愛は岩をも貫く”とありますが、野卑で暴圧な権力は、その愛さえも仮借なく踏み潰してはばからないのです。

康宗憲氏の胸の中、安らかであれ！そして、Aさんもまた……！（13号、78年10月20日）

白玉光氏のオモニ、金小福南さんの突然の訃報は、本通信編集集中に飛び込んできました。「出血が続き、毎日輸血の必要があるので“11・22通信”で献血を呼びかけてほしい」との救援会の要請で、丁度その記事を書き上げたところでした。

これで「11・22事件」勃発後、留学生らのご家族の方四氏が鬼籍に入られました。李哲氏、許景朝氏、金哲顕氏のご尊父、それに白玉光氏の母堂。

四氏とも、最愛の子を獄中に委ねたため心労が重なり、憤悶の中「一目わが子に会いたい」の念いを結実させることなくご逝去されました。死んでも死にきれなかったに違いありません。

ことに金小福南オモニは、末息子の白玉光氏をことのほか可愛がっておられました。

こういう話があります。白氏が逮捕された当初は面会が許されず、刑務所の役人の「検事の許可があれば」の一言に、単身検察庁に乗り込み、コンクリートの床をこぶしで叩き「一目会わせて欲しい」と号泣した話は有名です。そして初めて面会が実現した時、オモニはガラスの向うの白氏を見るや否や、一言も発せずその場で卒倒されたそうです。胸をかきむしられるような痛ましい話ではありませんか。

オモニの海の底よりも深い愛情に、われわれは何ら応えることができませんでした。深くお詫びするとともに、必ずや白氏を含む無実の留学生らを連れ戻すことを誓うものです。

オモニはいま幸福かも知れません。魂は一日に千里を走るといいます。ソウル拘置所にいる、一時も忘れることのなかった息子さんをあたたかく見守ってあげて下さい。われわれが彼を救出するまで——。

（15号、79年2月17日）

新緑の滴る季節がつい先立って到来したかと思うと、もうその緑の濃さが降りしきる雨に洗われ一層鮮やかさを増す梅雨のころとなりました。読者の皆さま方、お変わりございませんか。さて、救援会も、李哲氏夫人の閔香淑さんの刑期満了が目前に迫っているのでその対応に大忙しです。彼女は、三年六ヶ月の長期間の拘束が解かれ、やっと自由の身になれるわけですが、現在の情勢では仲々その思惑通りには行かないと予測されます。

韓国で、「反共法」違反で捕らわれたものは、もうそれだけで社会的に抹殺されるのです。戸籍に一生その『汚名』が記されるばかりか、その容疑者を出したというだけで一族郎党に、就職、結婚、進学、等に厄災が降りかかってくる。だから無実の罪で囚らわれの身となった閔さんが釈放されても、否応なくその渦中に放り込まれ新たな試練が始まるのを思うと、私共も胸が痛みます。加えて彼女には、死刑囚の夫を持つというもう一つの苦痛も考えなければなりません。

李哲氏が非転向を貫いているという理由で、彼女は二度も特赦を拒絶された事情を考慮するまでもなく、KCIAは彼女を最大限利用してくることが予想されます。

彼女の無条件・完全釈放を望まずにはいられません。8月23日を、そしてその後の閔さんの動向を、皆さんもご注視下さい。

（17号、79年6月28日）

西村先生とは鮮烈な思い出があります。

昨年5月27日の徐俊植氏再収監をめぐる一連の動きを、ドキュメントにまとめる企画がありました。その取材で私が西村先生の担当になりました。

天王寺のホテルで一時間という約束でしたが、興奮されている先生のお話に引きずられ、結果的には食事を挟んで四時間もインタビューしたのです。

その間、先生は徐俊植氏のこと、世界中に幽閉されている政治犯のことなどをとうとうと述べられました。私のノートのメモは30頁を超えました。話をしながら、先生はずっと泣いておられました。一枚のハンカチでは足りず、私のものも使われたほどです。

江戸末期の俠客清水次郎長の血筋を引くだけあって、先生は、弱いもの、貧しいもの、虐げられるものを守り育もうとする気概は並一通りのものではありませんでした。

晩年はかなり足腰が衰え、大阪に出てきた折は、私がよく駅の階段を降りるのに先生の杖代わりとなったものです。

くじけそうになった時、必ず励ましてくれた先生が、いまもうこの世にいない、ということがどうしても信じられません。

奇しくも8月15日、徐俊植氏は釈放されませんでした。初の在日韓国人「政治犯」の釈放をもし先生がご存知なら、きっと「よかった。よかった」と相好を崩して喜ばれたことでしょう。西村関一先生、安らかにお眠り下さい。  
(19号、79年10月14日)

一面掲載の、ご家族の陳情行動は近来にない画期的なことです。通信に載らなかった話を一つ紹介します。

尹潁善元大統領邸を訪れた時のことです。83歳の尹氏は一行の労をねぎらいながら、「私たちも気になっていたのですが、大したことが出来なく申しわけない」と切り出しました。金哲顛氏のオモニが、「アボジが死んだことを一年半隠していたら、哲顛が非常に怒って、“家族も誰も信じられない”と言っている」と話したところ、尹潁善氏は思わず貫い泣きされたそうです。

金芝河氏のオモニや朴炯圭氏の夫人は、最近の韓国の民主化グループの行動として、大田や光州の刑務所への“抗議ツアー”に参加した経験を話し、「皆さんが青瓦台（大統領官邸）の前で座り込みをするなら、私たちも一緒に参加します」と、在日と本国の政治犯家族同士での連帯行動が提案されました。

この会談でもう一つ特筆すべきことは、尹氏らが徐兄弟に深い関心を持ち、徐俊植氏のことに触れて、「民主国家としてはあってはならないことだ」と深い嘆息をもらされたそうです。

(23号、80年5月19日)

ここ数日、盛夏にもかかわらず鈍い鉛色の雲が重苦しく垂れ込め、時にはびっくりするような雨を降らせるかと思うと、こんどは一転<sup>すず</sup>驟り泣くような細かい霖雨が散ってきます。巷の声ではもっぱら世界的な異常気象の影響ではと説明されていますが、時折顔をあげそれらの光景を眺めこの手紙を書いている筆者には、二ヵ月前のあの光州の凄惨な情景と妙にダブります。銃剣で胸をえぐられ、背を串刺しにされ、棍棒で殴打され、機銃で掃射され、屋上から突き落とされ、装甲車の厚手タイヤで内臓を破られ……。光州の路上に血糊をべっとりつけ虐殺されたこれら無この<sup>おびただ</sup>夥しい市民の呻き声が、この時期外れの雨にはこもっているようです。まだ、夕方にもならないのにこんなに暗くそして悲しい空は見たことがありません。悔しさと屈辱とやり切れない悲痛を抱き散華した市民らの<sup>きこくしゅうしゅう</sup>鬼哭啾啾とした怨念が、この暗澹とした空から聞こえるようではありませんか――。

この『通信』の読者の方で、あの光州の惨劇に胸をかきむしられるような気持ちに陥らなかった人は、一人もいないと思います。

京都随一の繁華街は寒波もどこへやら、忘年会帰りらしい酔客の叫声が満ちておりました。その時、私の耳に奇妙な歌声が飛び込んできました。100人ほど向こうから、車道をゆっくり進んでくる一群から聞こえてきたものです。その100人ほどの一群は、手に手に一本のローソクをかざしながら、ゆっくりと歩を進めて近づいてきました。いくら無信仰な私でも、それがクリスマスを祝うキャンドルサービスで、歌は賛美歌だということは、すぐ分かりました。足早やにその側を通り抜けようとした私は、彼らの突然の叫び声にびっくりしました。全身が電流で貫かれたような感動でした。喧噪の渦巻く街で、ひとときわ場違いな集団は、こういったのです。「金大中を救え！」

このキャンドルサービスの一群は、金大中氏救命のため、京都各地から集った宗派を超えたキリスト者のデモだったのです。

ここ1～2日の間、私たちは同じような感動的な光景に何度も遭遇しました。自惚れかもしれませんが、何年も日韓問題を手がけてきた私たちは、この種の問題をやってきたグループは大抵判別できます。元来、韓国問題は、運動全般から見れば非常に地味で、また、いわゆる政党からみれば票に結びつかないらしく、自ずと取り組むグループは限られていました。それ故、このグループ間はいわゆる仲間内で、大体が“顔なじみ”です。

ところが、こういう“常識”は、ここ1～2ヵ月で完全に覆りました。あっちのターミナルで、こっちの広場でというように、「金大中氏を救え！在日の死刑囚を殺すな！」とシュプレヒコールをあげているグループが、一体誰なのか分からないのです。言い換えれば、それだけ多くの人がこの運動を支えているということです。もう一つ言い換えれば、ことほどさように金大中の命が危機的状況にあるということなのです。しかし、私たちの懸命な運動が決して無為に終わらず、必ず結実することを確信しています。

(27号、80年12月25日)

2月12日、姜鍾健氏出迎えに大邱に赴いた77歳のお父さんと二人の兄弟は矯正所で彼と再会しました。老いたお父さんは、彼を見るや否やその場で泣き崩れ、当局の執拗な転向強要に一貫して拒絶してきた“逞しい”姜鍾健氏も泣き出してしまい、殆ど話ができなかつたそうです。韓国人は“泣哭の民”ともいわれていますが、それにしても、何とやるせない親子の悲しい涙でしょう。

12月末、姜氏は面会に来た長兄とかなり長時間話しあいました。この折には、所長・教務課長・それに大邱分所のCIAの係官も立ち会いました。席上、姜氏は「自分は共産主義者ではないが、民衆を収奪してきた朴政権、それに続く全斗煥政権は決して容認できない」と述べたところ、くだんのCIAがやおら立ちあがり、激昂して、「お前のような奴は、ワシの目の黒い内は生きてここから絶対に出さん！」と怒鳴ったそうです。彼の再収監の決定は、この時に決ったのかも知れませんが、単なる“政権批判”さえも許容できない国家体制なるものは一体何でしょうか。韓国当局は、単に法規上の事務処理を行ったというかも知れませんが、その仮借ない決定のため、どれだけ多くの人悲しみの淵に追いやられたことでしょう。

2月14日の記者会見は、姜氏の救援会の連絡所になっている同志社大の高原先生の研究室で行われました。昨夏の面会以来、高原先生は余り丈夫でないお身体に鞭打って懸命に訴えてこられました。それだけに、午前中に飛び込んできた報告にがっくり肩を落とされ、意気消沈ぶりがはた目にも明らかなため、押しかけた記者の人たちも質問できるような雰囲気ではなかったと、後で言うておりました。

(28号、81年2月28日)

“北の春”といえは、私は韓国の春を思い出します。烈寒に震え、灰白色に沈んだ冬が去ると、日本の北の春のように、韓国の春も一斉に花開きます。ソウルから釜山に向う「セマウル号」の車窓から

昨年「10・26朴射殺事件」後、韓国は大きく揺れ動きました。新聞紙上には、毎日のように韓国の情勢が大きなスペースを占めました。

韓国の春——誰もがこの甘美な響きにささやかな酔を感じた筈です。ことに、圧制の長かった韓国の民衆たちの念い入れは、暗い暗い凍てつく冬を幾年も幾年も過ごしたことから、その飛来は憧憬のように映っていました。しかし、いまはそれを夢みることすら許されない最悪の季節になりました。

5月27日、光州事態の終焉は東の間の春を呼び醒ます小さな芽すら摘みとってしまいました。奇しくもこの日、5月27日は、われわれが懸命になって釈放を叫び続けた徐俊植氏のあらたな二年間の拘禁が決定された日でした。

期せずして、南と北の二つの都市(光州・清州)から暗冥のヴェイルが韓国全土を覆い出したのです。いま私は、歴史の大きな流れの中に設けられた“節目”を感じます。誰もが、それこそ生きとし生けるものはこの“事実”から眼を背けてはなりません。いま感傷は必要ありません。かの地で闘う人々にとって、それは卑怯な連帯です。

われわれは歴史の峻厳な審判者でなければならないのです。この冷厳な事実を一コマ一コマ自からの網膜にしかと焼きつけなければなりません。暗澹たる情勢であるからこそ、その作業を怠ってはなりません。



5月20日未明、この日一人のオモニの魂が忽焉と京洛の地から空に翔けあがりました。

その位置からは、玄海灘を隔てて故国の牢獄に蟄居を余儀なくされた二人の息子が望めるでしょうか。

このオモニは偉大なる人ではありません。市井のどこにでもいるごくありふれた一人の女に過ぎないのですが、彼女は実に偉大な“母”でありました。このオモニもまた、多くの在日韓国人一世のように、若き頃流浪の民の一人として日本に渡ってきました。

しかし、その地で居を定めたのも東の間で、二人の子息が逮捕されてこのかた、このオモニはあて途なき流謫の旅を始めねばならなかったのです。九年間で60余回という想像を絶するような、この故国の地を彷徨する旅は遂に終着を見出すことができませんでした。

ある時は酷寒の中、重い足を引き摺り、またある時は炎熱の中、胸を打擲し逡巡する旅はこれで途切れしました。

しかし、獄舎の徐兄弟とその家族の苦難はこれからも続きます。5月26日夕、俊植氏は面会に来た妹英実さんから、オモニの悲報を聞き滂沱たる涙に暮れたそうです。九年間、凄絶な当局の転向強要に敢然と闘い続けた気丈な彼は、この日面会室の仕切戸越しに相對した妹と二人して運命の非情さを呪ったことでしょう。この日はオモニの初七日でしたが、この若い兄妹たちにとってはあらたな闘いが既に始まっていたのです。

筆者はいま、この5月27日に起きた二つの“事実”をみながら、一体に“韓国とかかわるとはどのようなことなのか”、あるいは“他者を救援するとはどのようなことなのか”という原点の“問い”に直面しております。

多分、茫漠とした答ならぬ答を求めつつ歩まねばならないでしょう。重い現実を、これでもかと突きつけられつつ歩まねばならないのです。

(24号、80年7月30日)

12月22日は大変寒い日で、終日小雪が舞っておりました。『通信』をやっと脱稿、印刷屋さんへ届けた後、知人と会うため、京都四条河原町にやってきました。夜の8時頃です。

望む景観は、一等見事です。畔などに群生している鮮黄色の花は連翹(れんぎょう)です。大邱の近辺では、斑鳩いかるがの里を想わせるような菜の花畑がどこまでも続いていました。白い小花をたわわな枝で垂れさせているのは雪柳でしょうか、日本の山吹を小ぶりにしたような花もよく見ました。

どの辺りだったか記憶が定かではありませんが、急に甘酸っぱい匂いがしたかと思うと、真白な林檎の花が丘陵に沿って盛りでした。

少し時期が下がると、全羅道のやさしいカーブを画いた低山には、緑の粧いの間隙を縫うように真赤な矮樹が占めます。古来から朝鮮の人がこよなく愛した“山つつじ”です。

田舎だけではなく都会にも春の恵みは同じようにやってきます。ソウル拘置所からほど遠くない旧街道を想わせるような道筋に植えられたポプラやプラタナスは、冬の神経質そうな尖った細い枝を青い芽でキラキラと輝やかせていました。

めぐりめぐって、今年も韓国には春がやってきましたが、はたして道行く人はこの春をいかなるおもいで見つめているのでしょうか。

重い、余りにも重い韓国の現実の前には、この燦然さんぜんと放つ春光あも何ゆえか色褪せるようです。今日新聞に、金大中氏の長男金弘きんぎよう一氏に懲役3年の刑が確定したとありました。

ここにも避けて通れない、重い足枷のごとき韓国の一断相があります。一人を捕えると、一家眷族けんぞくを総て縛にするという前近代的政策が韓国では依然として大手を振っています。金弘一氏の新聞記事を読みながら、私は一人のうら若い韓国の女性を連想しました。いろいろさわりがあるので、その女性をKさんとします。Kさんは、ある刑務所の前で日本人救援会員と偶然会いました。いろいろなきさつがあって、会員はKさんの身の上話を聞く羽目になりました。そして愕然としました。五年程前、Kさんの遠縁にあたる青年が“北のスパイ”容疑で逮捕されました。その青年に関りあり、とされてまず大学教師のKさんの父親が摺まりました。次に母親です。兄も逮捕され、“告知義務”違反ということで彼女もK C I Aの取調室に連行されました。幸か不幸か唯一逮捕を免れたのは、彼女のお姉さんだけだったそうです。勿論財産は全て没収されました。

Kさんは、四年の刑期を昨年やっと了え、現在姉の許に身を寄せながら、少しお金がたまると、このように両親と兄の差し入れに刑務所を回っているのだそうです。彼女は、「せめて一ヵ所にしてくれたら助かるのに。三ヵ所回るから、旅費が高くて、ちょっぴりしか差し入れができない」とこぼしていたそうです。

金大中氏の減刑以後、とみに日韓の急接近が謀られています。このような韓国の現実をかの両政府の為政者たちは知っているのでしょうか。いや私たちさえもまだよく分かりかねることですが……。

(29号、81年4月17日)

最後にカンパのお願いを致します。この通信を作る前に、会計の方から「2ページなら何とかなりそう」ということでした。ところが、急に内容が膨れあがり6面になってしまいました。会計担当は、「知らない。皆さんで(お金を)作るなら」と言われ、やむなく数人が十万円ずつ借金することになりました。それだけでなく、秋期の救援も孫裕炯氏の裁判進行と併せて、かなり活発に動きそうです。11月には6周年の一連の行事もあります。また8・15の釈放者たちも帰日しますが、生活困窮の人には帰りの飛行機代位援助したいと考えています。ボーナス期でもなく、賃金はあがらず物価も高いこの苦しい時期にお願いするのは心苦しいのですが、ぜひともカンパをお寄せ下さるようお願い申し上げます。

一面の見出しにあるように、最後の勝利まで、ひた走りに走り続ける所存です。皆さまも、できる範囲で結構ですからご支援、ご助力お願い申し上げます

(32号、81年9月22日)